

新城の歴史

(石器時代〜古墳時代編)

新城の成り立ち

新城は垂水市の最南部に位置し、鹿屋市と接しています。東に高隈連山があり、西は錦江湾に面しています。

大隅半島は約2000万年前、海底にありましたが、屋久島、甌島、南大隅と共に地底が時代不詳の堆積岩類に貫入し、非常に硬い花崗岩として隆起してきました。花崗岩は石英や長石、黒雲母などで構成されていますが風化し易く、水を良く透します。南九州には3つのカルデラがあり、阿多カルデラは11万年前、始良カルデラは2万9000年前、鬼界カルデラは7300年前に出来ました。新城麓の海岸には、白崩といふ高さ60m幅2km

の切り立った崖があり、海上遠くから眺められ、昔から秋太郎漁(カジキマブコ漁)の漁船の良い目印になっていました。この崖は3層からなり、最下部の茶褐色層は阿多カルデラの溶結凝灰岩層で、波にえぐられた洞窟はまさに「猿の惑星」の様です。2層目は始良カルデラのシラスで、最上部は鬼界カルデラのシラスの層(アカホヤ)となっています。

高隈連山には1000m以上の山が7峰もあり、新城には5本の小さい川が流れ、その周辺に小さな扇状帯が広がっていますが、そこに数千年前から人が住んでおり、狩猟や漁労をして生活してきたと考えられています。

時代で見る新城の歴史

■石器時代 (BC数千年〜)

麓・田平・小谷等で石斧が発見されています。

■縄文時代・弥生時代 (BC3000年〜AD3000年)

鉄道公園付近の宮下遺跡が隣接する柘原貝塚から、縄文・弥生時代の土器類が多く発掘されています。

■古墳時代 (AD150〜700年)

古事記によると1世紀の頃、景行天皇及び仲哀天皇の2回の熊襲征伐がありました。5世紀頃には、隼人は天皇に恭順し、警護の任に当たったとされています。この頃新城は、神木村と呼ばれていました。

●新城の歴史等を紹介した冊子が、新城地区公民館にて配布中です。



▲新城 文化財・観光めぐり (表・裏あり)



Healthmate recipe of this month レシピを調理した食改さん



宮城 素美子さん

今月のレシピ

忙しい人のためのササッと1食【野菜づくし丼とさっぱり小皿】



【材料】(1人分)

- 野菜づくし丼
 - ご飯 / 1杯分
 - キャベツ / 1枚 (ザク切り)
 - もやし / 1/2袋
 - ニラ / 1/2束 (2cm幅)
 - 人参 / 1/4個 (いちょう切り)
 - ピーマン / 2個 (細線切り)
 - なす / 小1個 (乱切り)
 - 豚バラ肉 / 50g
 - ごま油 / 小さじ1
 - 塩昆布 / 5g
 - ▲ □ 白だし / 小さじ1
 - こしょう / 少々
- さっぱり小皿
 - きゅうり / 1/3本
 - みょうが / 1個
 - もやし / 1/2袋
 - ポン酢 / 小さじ2



① 野菜をそれぞれ食べやすい大きさに切る。



② なすとにんじんを耐熱皿に入れレンジで1分間(600w)加熱する。

③ ②の皿に、にら以外の野菜を入れ、さらに1分間(600w)加熱する。



④ フライパンにごま油をひいて、豚バラ肉を炒め、火が通ったら③とニラを加えて炒める。



⑤ 全体に火が通ったら、火を止め、▲を加えて混ぜる。



⑥ ごはんの上に⑤を乗せれば完成!



① きゅうりは薄い半月切り。みょうがは千切りにし、水にさらし水気を切る。もやしは水洗い。



② ①を耐熱皿に入れてレンジで1分間(600w)加熱する。



③ ②をボールに入れてポン酢をさっとかければ、完成!(お好みで柚子粉末も!)



食改完了

忙しい人のためのササッと1食【野菜づくし丼とさっぱり小皿】

【1人分あたり】

▼ 野菜づくし丼
エネルギー 650kcal
食塩相当量 1.5g

▼ さっぱり小皿
エネルギー 66kcal
食塩相当量 0.8g